

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-115473

(43) 公開日 平成8年(1996)5月7日

(51) Int.Cl.⁶

G 0 7 G 1/12

G 0 6 F 17/60

識別記号

3 6 1 C

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

G 0 6 F 15/ 21

3 3 0

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号

特願平6-249581

(22) 出願日

平成6年(1994)10月14日

(71) 出願人 000003562

株式会社テック

静岡県田方郡大仁町大仁570番地

(72) 発明者 加藤 真人

静岡県田方郡大仁町大仁570番地 株式会

社テック大仁工場内

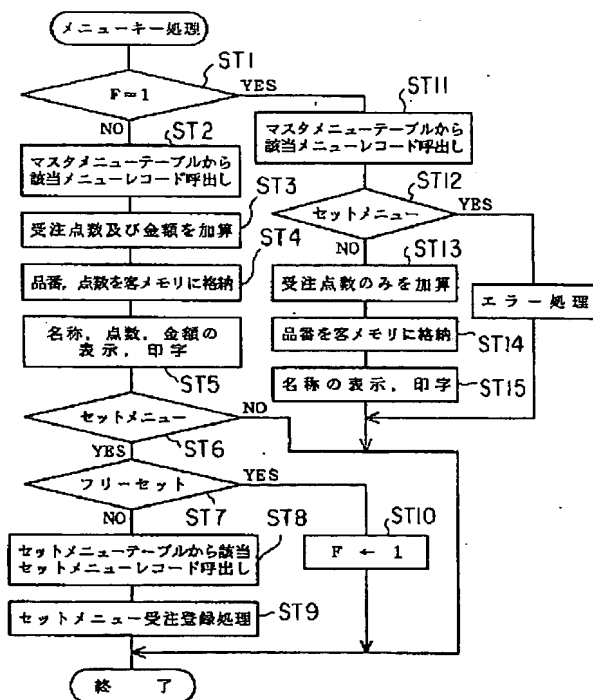
(74) 代理人 弁理士 鈴江 武彦

(54) 【発明の名称】 商品受注登録データ処理装置

(57) 【要約】

【目的】 複数の単品メニュー品目を自由に組合せて一定の単価で提供するフリーセットメニュー品目の受注登録を処理可能にする。

【構成】 メニューキー操作によりフリーセットメニュー品目の品番が入力されると、この品番に対応して設定されている単価でフリーセットメニュー品目の受注登録処理を行う。また、選択中フラグをフリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択中の状態にセットする。この状態で、メニューキー操作により単品メニュー品目の品番が入力されると、この品番に対応する単品メニュー品目の受注登録処理を単価を零として行う。その後、選択終了キーによりフリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択終了が宣言されると、選択中フラグをリセットする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 各種の単品メニュー品目毎にそれぞれ設定された品番に対応して単価を記憶するとともに、複数の単品メニュー品目を自由に組合せて一定の単価で提供するフリーセットメニュー品目に設定された品番に対応して単価を記憶してなるメニューテーブルと、前記フリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択中か否かを識別するための選択中フラグを記憶するフラグ記憶手段と、客が注文したメニューの品番を入力する品番入力手段と、この品番入力手段により品番が入力される毎に前記選択中フラグを調べて前記フリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択中か否かを判断するフラグ判断手段と、このフラグ判断手段により非選択中であることが判断されると前記品番入力手段により入力された品番のメニュー品目の単価で受注登録処理する受注登録処理手段と、この登録処理手段により受注登録処理されたメニュー品目が前記フリーセットメニュー品目であるとき前記選択中フラグを選択中の状態にセットするフラグセット手段と、前記フラグ判断手段により選択中であることが判断されると前記品番入力手段により入力された品番のメニュー品目が単品メニュー品目であるときその単品メニュー品目を単価を零として受注登録処理するフリーセットメニュー受注登録処理手段と、前記フリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択終了を宣言する終了宣言手段と、前記選択中フラグが選択中の状態のとき前記終了宣言手段により終了宣言が行われると前記選択中フラグを非選択中の状態にリセットするフラグリセット手段と、を具備したことを特徴とする商品受注登録データ処理装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、レストラン、喫茶店等の飲食店で利用される商品受注登録データ処理装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来のこの種の商品受注登録データ処理装置として電子式キャッシュレジスタを利用したものである。この電子式キャッシュレジスタは、各種の飲食メニュー品目毎に予め設定された品番に対応して名称、単価等を記憶したメニューテーブルを搭載している。また、前記品番を入力する手段として例えばキーボードを備えるとともに、受注伝票（レシート）を印刷するためのプリンタを備えている。

【0003】しかして、キーボードから客が注文した飲食メニュー品目の品番が入力されると、その品番に対応する名称、単価等をメニューテーブルから呼出し、プリ

ンタによってレシート用紙に印刷するとともに、記憶部に該当メニュー品目の受注データ（受注点数＝1，受注金額＝単価）を登録処理するように構成されていた。

【0004】ところで、飲食店のなかには複数の単品メニュー品目を組合わせて1つのメニュー品目とした、いわゆるセットメニュー品目を扱っているところがある。例えば、ハンバーグと、ライスまたはパンと、コーヒーまたは紅茶との3品で1000円とするようなメニューである。

10 【0005】従来、このようなセットメニューの登録機能を有する電子式キャッシュレジスタとしては、メニューテーブルにおけるセットメニュー品目の品番に対応してセットメニューであることを示すステータス情報及びセットメニューの識別コードを設定するとともに、各種セットメニューの識別コードに対応してそのセットメニューに含まれるメニュー品目の品番を予め設定したセットメニューテーブルを設け、セットメニューの品番が入力されると、セットメニューテーブルを参照して該当セットメニューに含まれるメニュー品目の品番を取得し、20 自動的に受注登録処理するものであった。

【0006】

【発明が解決しようとする課題】このように、従来の商品受注登録データ処理装置においては、セットメニューの登録機能は有しているものの、セットメニューに含まれるメニュー品目の品番を予め設定したセットメニューテーブルを参照して受注登録処理されるので、セットメニューとして組合わせられるメニュー品目に制限があった。このため、セットメニューを注文した客は予め指定された範疇で商品を選択しなければならず、サービス性が不十分であった。

30 【0007】例えば、ハンバーグと、ライスまたはパンと、コーヒーまたは紅茶との3品からなるセットメニュー品目では、ライスまたはパンの代りにスパゲッティを注文したい客はセットメニュー品目を注文することができず、ハンバーグと、スパゲッティと、コーヒーまたは紅茶とをそれぞれ単品で注文することになり、価格が高くなる等の不満があった。

【0008】そこで、飲食店のなかには、複数の単品メニュー品目を自由に組合せて一定の単価で提供するセットメニュー品目、いわゆるフリーセットメニュー品目をメニューに加えることで、サービス性の向上を図ろうとするところがあった。しかしながら、従来の商品受注登録データ処理装置においては、上述したようなフリーセットメニュー品目の受注登録を処理する機能を備えたものがなかった。

50 【0009】本発明はこのような事情に基づいてなされたもので、その目的とするところは、複数の単品メニュー品目を自由に組合せて一定の単価で提供するフリーセットメニュー品目の受注登録を簡単に処理することができ、操作性を低下させることなく客へのサービス性向上

を図り得る商品受注登録データ処理装置を提供しようとするものである。

【0010】

【課題を解決するための手段】本発明は、各種の単品メニュー品目毎にそれぞれ設定された品番に対応して単価を記憶するとともに、複数の単品メニュー品目を自由に組合せて一定の単価で提供するフリーセットメニュー品目に設定された品番に対応して単価を記憶してなるメニューテーブルと、フリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択中か否かを識別するための選択中フラグを記憶するフラグ記憶手段と、客が注文したメニューの品番を入力する品番入力手段と、この品番入力手段により品番が入力される毎に選択中フラグを調べてフリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択中か否かを判断するフラグ判断手段と、このフラグ判断手段により非選択中であることが判断されると品番入力手段により入力された品番のメニュー品目の単価で受注登録処理する受注登録処理手段と、この登録処理手段により受注登録処理されたメニュー品目がフリーセットメニュー品目であるとき選択中フラグを選択中の状態にセットするフラグセット手段と、フラグ判断手段により選択中であることが判断されると品番入力手段により入力された品番のメニュー品目が単品メニュー品目であるときその単品メニュー品目を単価を零として受注登録処理するフリーセットメニュー受注登録処理手段と、フリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択終了を宣言する終了宣言手段と、選択中フラグが選択中の状態のとき終了宣言手段により終了宣言が行われると選択中フラグを非選択中の状態にリセットするフラグリセット手段とを備えた商品受注登録データ処理装置である。

【0011】

【作用】このような構成の本発明であれば、品番入力手段を介してフリーセットメニュー品目の品番を入力すると、このフリーセットメニュー品目がメニューテーブルに設定されている単価で受注登録処理されるとともに、選択中フラグが選択中の状態にセットされる。次いで、品番入力手段を介してフリーセットメニューとして組合せる単品メニュー品目の品番を入力すると、その単品メニュー品目が単価を零として受注登録処理される。同様に、品番入力手段を介してフリーセットメニューとして組合せる別の単品メニュー品目の品番を入力すると、その単品メニュー品目が単価を零として受注登録処理される。こうして、フリーセットメニューとして組合せる全ての単品メニュー品目の品番を入力し終わると、終了宣言手段によりフリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択終了を宣言する。そうすると、選択中フラグが非選択中の状態にリセットされる。その後、品番入力手段を介して単品メニュー品目の品番を入力すると、この単品メニュー品目がメニュー

テーブルに設定されている単価で受注登録処理される。

【0012】

【実施例】以下、本発明の商品受注登録データ処理装置を飲食店向け電子式キャッシュレジスタに適用した一実施例について図面を参照しながら説明する。なお、この実施例では、各種の単品メニュー品目の他に、予めメニュー品目の組合わせが決められた規定セットメニューと、複数の単品メニュー品目を自由に組合せて一定の単価で提供するフリーセットメニュー品目とを扱う飲食店で用いる場合について説明する。

【0013】図1はこの実施例における電子式キャッシュレジスタ1の外観構成を示す斜視図である。この電子式キャッシュレジスタ1は、本体正面にキーボード2と前面表示器3とを設け、背面に客面表示器4を設けている。また、レシート用紙及びジャーナル用紙にデータ印字する印字手段としてプリンタ5を本体内部に搭載しており、このプリンタ5によって印字されたレシート用紙を本体正面に形成されたレシート発行口6から排出するようになっている。なお、ジャーナル用紙は電子式キャッシュレジスタ1の内部にて巻き取られる。さらに、本体下部に現金等を収容するためのドロワ7を設けている。

【0014】前記キーボード2には、各種の単品メニュー品目、規定セットメニュー品目及びフリーセットメニュー品目毎にそれぞれ設定される品番が割り付けられる複数のメニューキー2aが設けられている。また、数値データを置数するための置数キー2bの他、数値データをクリアするためのクリアキー2c、1客との取引終了を宣言する締めキー2d、フリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択終了を宣言する終了宣言手段としての選択終了キー2e等の各種ファンクションキーも設けられている。

【0015】さらに、前記キーボード2には、「登録」、「点検」、「精算」、「設定」等の各種業務モードを選択するためのモードスイッチ8が設けられている。ここで、「登録」とは前記メニューキー2aにより品番入力されたメニュー品目の点数、金額等の受注データを記憶部に登録処理する業務のモード、「点検」とは登録業務により記憶部に登録処理された各メニュー品目の合計データを点検レポートとして出力する業務のモード、「精算」とは点検業務と同様に記憶部に登録処理された各メニュー品目の合計データを精算レポートとして出力した後、記憶部の内容をクリアする業務のモード、「設定」とは各種業務を実行する上で必要なデータを記憶部に予め設定しておく業務のモードである。

【0016】図2はこの電子式キャッシュレジスタ1を制御する制御部の要部構成を示すブロック図であって、制御部本体としてCPU(中央処理装置)11を搭載している。また、このCPU11によって制御される主記憶部としてROM(リード・オンリ・メモリ)12及び

RAM (ランダム・アクセス・メモリ) 13 を搭載している。

【0017】さらに、システム日時を計時する時計回路 14、飲食店内の厨房に設置されるキッチンプリンタ 15 との間で通信回線 16 を介して行われるデータの送受信を制御する通信インタフェース 17、前記モードスイッチ 8 からの信号が入力されるとともに前記ドロワ 7 を開放動作させるドロワ開放装置 7a への開放指令信号を送出する I/O ポート 18、前記キーボード 2 を制御して入力操作されたキーに対応する信号を取込むキーボードコントローラ 19、前記前面表示器 3 及び客面表示器 4 にそれぞれ表示データを転送して画面表示を制御する表示器コントローラ 20、前記プリンタ 5 に印字データを転送してレシート用紙及びジャーナル用紙への印字を制御するプリンタコントローラ 21 等を搭載している。

【0018】そして、前記 CPU 11 と、ROM 12、RAM 13、時計回路 14、通信インタフェース 17、I/O ポート 18 及び各コントローラ 19、20、21 とは、アドレスバス、データバス等のバスライン 22 で電氣的に接続されている。

【0019】前記 ROM 12 には、プログラムデータ等の固定的データが予め格納されている。前記 RAM 13 には、図 3 に示すように、規定セットメニュー品目及びフリーセットメニュー品目を含む各種のメニュー品目毎にそれぞれ設定された品番に対応して名称、単価、第 1 ステータス s1、第 2 ステータス s2、セット番号等を記憶するとともに、注文点数及び注文金額の合計エリアを有するマスタメニューテーブル 31 が設けられている。

【0020】ここで、第 1 ステータス s1 は、対応するメニュー品目が単品メニュー品目であるとき“0”、セットメニュー品目であるとき“1”となる。また、第 2 ステータス s2 は、セットメニュー品目のなかで規定セットメニュー品目であるとき“0”、フリーセットメニュー品目であるとき“1”となる。

【0021】セット番号は、規定セットメニューを識別するコードであって、前記 RAM 13 には、各セット番号に対応してその規定セットメニュー品目を構成するメインメニュー品目及び複数のサブメニュー品目の各品番が予め設定されたセットメニューテーブル 32 が設けられている。なお、サブメニュー品目は段階別に二者択一できるようになっており、それぞれ選択可能なメニュー品目の品番が設定されている。

【0022】また、前記 RAM 13 には、1 客が注文した全メニュー品目の品番、点数を記憶する客メモリ 33、フリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択中か否かを識別するための選択中フラグを記憶するフラグ記憶手段としてのフラグメモリ 34 等が形成されている。

【0023】しかして、前記 CPU 11 は、モードスイ

ッチ 8 により「登録」モードが選択されている状態で、品番入力手段としてのメニューキー 2a の操作入力により品番入力を検知すると、図 4 の流れ図に示すメニューキー処理を実行するようにプログラム構成されている。

【0024】すなわち、CPU 11 はキーボードコントローラ 19 を介して取込んだキー信号がメニューキー 2a のいずれか 1 キーの操作入力により発生したキー信号であり、この操作メニューキーに割当てられている品番を RAM 13 上に予め設定されたプリセットキーテーブルから取得するとこのメニューキー処理を開始する。そして、ST (ステップ) 1 としてフラグメモリ 34 に記憶されている選択中フラグ F の状態を調べてフリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択中か否かを判断する (フラグ判断手段)。

【0025】ここで、選択中フラグ F が“0”にリセットされている場合には非選択中であるので、ST 2 としてマスタメニューテーブル 31 から入力品番に対応する名称、単価、第 1 ステータス s1、第 2 ステータス s2 及びセット番号のレコードを呼び出す。そして、ST 3 として受注点数を“1”、受注金額を単価としてマスタメニューテーブル 31 の入力品番に対応する点数合計エリア及び金額合計エリアにそれぞれ加算する。また、ST 4 として品番及び受注点数を客メモリ 33 に格納する。さらに、ST 5 として名称、受注点数及び受注金額を前面表示器 13 及び客面表示器 14 に表示させるとともに、プリンタ 15 を駆動してレシート用紙及びジャーナル用紙に印字させる (受注登録処理手段)。

【0026】なお、客メモリ 33 は 1 客に対する最初のメニュー品目の受注登録に先立ってクリアされている。

【0027】次に、ST 6 としてマスタメニューテーブル 31 から呼出したレコードの第 1 ステータス s1 を調べる。そして、この第 1 ステータス s1 が“0”、つまり単品メニュー品目の受注登録の場合には、このメニューキー処理を終了する。

【0028】ST 6 にて第 1 ステータス s1 が“1”、つまりセットメニュー品目の受注登録の場合には、ST 7 として該当レコードの第 2 ステータス s2 を調べる。そして、この第 2 ステータス s2 が“0”、つまり規定セットメニュー品目の受注登録処理の場合には、ST 8 としてセットメニューテーブル 32 から該当レコードのセット番号に対応するメインメニュー品目の品番及び各サブメニュー品目の品番のレコードを呼出す。そして、このレコードに基づいて従来通りに規定セットメニュー品目の受注登録を処理する。

【0029】すなわち、先ずメインメニュー品目の品番に対応するレコードをマスタメニューテーブル 31 から呼出し、名称を前面表示器 13 及び客面表示器 14 に表示させるとともに、プリンタ 15 を駆動してレシート用紙及びジャーナル用紙に印字させる。次に、第 1 段階のサブメニュー品目の両品番にそれぞれ対応するレコード

10

20

30

40

50

7

をマスタメニューテーブル31から呼出し、各々の名称を前面表示器13及び客面表示器14に表示させる。この状態でいずれか一方のメニュー品目の品番がメニューキー2aにより入力されると、この品番を客メモリ33に格納するとともに、この品番に対応する名称をレシート用紙及びジャーナル用紙に印字させる。以下、第2段階及び第3段階のサブメニュー品目についても第1段階のサブメニュー品目と同様に処理したならば、このメニューキー処理を終了する。なお、品番[0000]はサブメニュー品目が未設定であることを示している。

【0030】ST7にて第2ステータスs2が“1”、つまりフリーセットメニュー品目の受注登録処理の場合には、ST10としてフラグメモリ34の選択中フラグFを“1”にセットした後（フラグセット手段）、このメニューキー処理を終了する。

【0031】一方、ST1にて選択中フラグFが“0”にリセットされている場合にはフリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択中であるので、ST11としてマスタメニューテーブル31から入力品番に対応する名称、単価、第1ステータスs1、第2ステータスs2及びセット番号のレコードを呼び出す。そして、ST12として第1ステータスs1を調べる。

【0032】ここで、第1ステータスs1が“1”、つまりセットメニュー品目のレコードの場合には、フリーセットメニュー品目として組合せるメニュー品目として不適当な品目の品番が入力されたので、エラー処理を行った後、このキー処理を終了する。なお、エラー処理とは、エラーメッセージを前面表示器3に表示させ、その後クリアキー2cが操作入力されたならば、エラーメッセージの表示をクリアする処理である。

【0033】ST12にて第1ステータスs1が“0”、つまり単品メニュー品目のレコードの場合には、単価を零として受注登録処理を行う。すなわち、ST13として受注点数を“1”、受注金額を零としてマスタメニューテーブル31の入力品番に対応する点数合計エリア及び金額合計エリアにそれぞれ加算する。また、ST14として品番及び受注点数を客メモリ33に格納する。さらに、ST15として名称及び受注点数を前面表示器13及び客面表示器14に表示させるとともに、プリンタ15を駆動してレシート用紙及びジャーナル用紙に印字させる（フリーセットメニュー受注登録処理手段）。その後、このメニューキー処理を終了する。

【0034】また、前記CPU11は、モードスイッチ8により「登録」モードが選択されている状態で、終了宣言手段としての選択終了キー2eの操作入力を検知すると、図5の流れ図に示す選択終了キー処理を実行するようにプログラム構成されている。

【0035】すなわち、CPU11はキーボードコントローラ19を介して取込んだキー信号が選択終了キー2

8

eの操作入力により発生したキー信号であることを確認すると、この選択終了キー処理を開始する。そして、先ずフラグメモリ34の選択中フラグFを調べる。この結果、“1”にセットされている場合には、フリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択中であり、その選択終了が宣言されたので、上記選択中フラグFを“0”にリセットして（フラグリセット手段）、この選択終了キー処理を終了する。

【0036】なお、選択中フラグFが“0”にリセットされている場合には、フリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の非選択中であるにも関わらず選択終了が宣言されたので、前記と同様のエラー処理を行って、この選択終了キー処理を終了する。

【0037】また、前記CPU11は、モードスイッチ8により「登録」モードが選択されている状態で、締めキー2dの操作入力を検知すると、例えば客メモリ33にデータが格納されているか否かを調べることによって1客の受注登録中か否かを判断し、受注登録中の場合には釣銭演算後、プリンタ14により図6に示すようなレシート60を発行するとともに、ドロワ開放装置7aに開放指令信号を送出してドロワ7を開放させる。また、通信インタフェース17を介して客メモリ33のデータをキッチンプリンタ15に送出する。その後、客メモリ33をクリアするようにプログラム構成されている。

【0038】なお、キッチンプリンタ15からは客メモリ33のデータが記録紙に印字されて、厨房内の調理担当者への調理指示票として用いられる。

【0039】このように構成された本実施例において、今、マスタメニューテーブル31及びセットメニューテーブル32にそれぞれ図3に示すデータが設定されているものとする。

【0040】この状態で、客が先ずサイコロステーキとスパゲッティとアイスクリームの3品を組合せたフリーセットメニューを注文したとすると、電子式キャッシュレジスタ1を操作する店員は、先ずフリーセットメニュー品目の品番[001]がプリセットされたメニューキー2aを操作入力する。

【0041】そうすると、図4に示すメニューキー処理のST1、2、3、4、5、6、7、10の順に処理が実行される。その結果、メインメニューテーブル31の品番[001]に対応する点数合計エリアに「1」が加算されるとともに、金額合計エリアに「2000」が加算される。また、フラグメモリ34の選択中フラグFが“1”にセットされる。さらに、「フリーセット 1 ¥2000」のデータが表示及び印字されるので、店員は単品メニュー品目「サイコロステーキ」の品番[006]がプリセットされたメニューキー2aを操作入力する。

【0042】そうすると、図4に示すメニューキー処理のST1、11、12、13、14、15の順に処理が

10

20

30

40

50

実行される。その結果、メインメニューテーブル31の品番〔006〕に対応する点数合計エリアに「1」が加算される。また、名称「サイコロステーキ」が表示及び印字されるので、店員は単品メニュー品目「スパゲッティ」の品番〔007〕がプリセットされたメニューキー2aを操作入力する。

【0043】そうすると、上記と同様に図4に示すメニューキー処理のST1, 11, 12, 13, 14, 15の順に処理が実行される。その結果、メインメニューテーブル31の品番〔007〕に対応する点数合計エリアに「1」が加算される。また、名称「スパゲッティ」が表示及び印字されるので、店員は単品メニュー品目「アイスクリーム」の品番〔009〕がプリセットされたメニューキー2aを操作入力する。

【0044】そうすると、上記と同様に図4に示すメニューキー処理のST1, 11, 12, 13, 14, 15の順に処理が実行される。その結果、メインメニューテーブル31の品番〔009〕に対応する点数合計エリアに「1」が加算される。また、名称「アイスクリーム」が表示及び印字されるので、店員は選択終了キー2eを操作入力して、フリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択終了を宣言する。

【0045】そうすると、図5の選択終了キー処理が実行されてフラグメモリ34の選択中フラグFが“0”にリセットされる。

【0046】次に、同一客が規定セットメニュー品目の「ハンバーグセット」を注文したとすると、店員は、先ず「ハンバーグセット」の品番〔002〕がプリセットされたメニューキー2aを操作入力する。

【0047】そうすると、図4に示すメニューキー処理のST1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9の順に処理が実行される。その結果、メインメニューテーブル31の品番〔002〕に対応する点数合計エリアに「1」が加算されるとともに、金額合計エリアに「1200」が加算される。また、「ハンバーグセット 1 ¥1200」のデータが表示及び印字される。さらに、メインメニュー品目の名称「ハンバーグ」が表示及び印字されるとともに第1段階のサブメニュー品目の名称「ライス（品番〔098〕）」と「パン（品番〔099〕）」とが表示されるので、店員は客にライスとパンのどちらを選択するか尋ねる。ここで、ライスを選択した場合には、この「ライス」の品番〔098〕がプリセットされたメニューキー2aを操作入力する。

【0048】そうすると、名称「ライス」が表示及び印字されるとともに第2段階のサブメニュー品目の名称「コーヒー」と「コウチャ」とが表示されるので、店員は客にコーヒーと紅茶のどちらを選択するか尋ねる。ここで、コーヒーを選択した場合には、この「コーヒー」の品番〔010〕がプリセットされたメニューキー2aを操作入力する。そうすると、名称「コーヒー」が表示

及び印字される。

【0049】次に、同一客が単品メニュー品目「ビーフカレー」を注文したとすると、店員は、「ビーフカレー」の品番〔008〕がプリセットされたメニューキー2aを操作入力する。

【0050】そうすると、図4に示すメニューキー処理のST1, 2, 3, 4, 5, 6の順に処理が実行される。その結果、メインメニューテーブル31の品番〔008〕に対応する点数合計エリアに「1」が加算されるとともに、金額合計エリアに「1000」が加算される。また「ビーフカレー 1 ¥1000」のデータが表示及び印字される。

【0051】以上でこの客の注文が終了し、代金として5000円を支払ったとすると、店員は預り金額「5000」を置数した後、締めキー2dを操作入力する。そうすると、「フリーセット」の金額2000円と「ハンバーグステーキ」の金額1200円と「ビーフカレー」の金額1000円との合計金額4200円と預り金額5000円とから算出された釣銭800円が表示されるとともに、レシート発行口6から図6に示すようなレシート60が印字発行され、ドロワ7が開放されるので、店員は釣銭とともにレシート60を客に渡す。

【0052】なお、フリーセットメニュー品目として組合せる単品メニュー品目の選択中に、セットメニュー品目の品番を入力してしまう操作エラーを冒した場合には、そのセットメニュー品目の受注登録が行われる前にエラーメッセージが表示されるので、店員はクリアキー2bを操作してエラー状態を解除すればよい。

【0053】このように、本実施例によれば、複数の単品メニュー品目を自由に組合せて一定の単価で提供するセットメニュー品目、いわゆるフリーセットメニュー品目の受注登録を、フリーセットメニュー品目の品番入力後、客が所望する単品メニュー品目の品番を順次入力する簡単な操作によって処理することができる。従って、飲食店のメニューに前記フリーセットメニュー品目を加えることができ、集客効果が高いサービスを客に提供できるようになる。

【0054】また、フリーセットメニューとして組合わせた単品メニュー品目の受注点数がマスタメニューテーブル31の点数合計エリアにて累計処理されるので、在庫管理や発注管理等を正確に行うことができる。

【0055】なお、前記実施例ではメニューキー2aの操作によりプリセットされた品番を入力する場合を示したが、品番の入力方法はこれに限定されるものではない。例えば、置数データが品番であることを指定するキーを設け、このキーと置数キーによって品番を置数入力するようにしてもよい。また、電子式キャッシュレジスタ1にバーコードスキャナを接続し、品番をバーコードとして読取り入力するようにしてもよい。

【0056】また、前記実施例ではフリーセットメニュー

一品目として組合せできる単品メニュー品目の個数を無制限としたが、制限する場合には、選択された単品メニュー品目の個数をカウントするカウンタを設け、このカウンタ値が制限個数に達したならば自動的に終了宣言信号がCPU 11に送出されるように構成すればよい。この場合、終了宣言手段はカウンタを監視し、制限個数に達したとき終了宣言信号をCPU 11に送出する構成部となる。

【0057】また、複数人のグループ客がフリーセットメニュー 1 点のみを注文し、各人が注文したい単品メニュー品目をそのフリーセットメニューに組合わせるような不正を防止するために、1 客の注文登録に先立ってその客の人数を設定し、受注登録手段により受注登録処理された回数と人数とを比較して、回数が人数を下回る時には締めキー 2 d の操作を禁止するようにプログラム構成すると好都合である。

【0058】また、近年、ファミリーレストラン等ではウェイターやウェイトレスと呼ばれる接客担当者がそれぞれ携帯したハンディターミナルにて客の注文データを入力し、各ハンディターミナにて入力された注文データをコンピュータ等によって構成されるステーションにて受注管理し、このステーションによりキッチンプリンタ及びカスタマープリンタからの伝票発行や電子式キャッシュレジスタでの代金精算業務等を一元処理するようにしたレストランシステムが実用化されているが、このようなレストランシステムにおけるハンディターミナルにも本発明の適用は可能である。この他、本発明の要旨を逸脱しない範囲で種々変形実施可能であるのは勿論である。

【0059】

【発明の効果】以上詳述したように本発明によれば、複

数の単品メニュー品目を自由に組合せて一定の単価で提供するフリーセットメニュー品目の受注登録を簡単に処理することができ、操作性を低下させることなく客へのサービス性向上を図り得る商品受注登録データ処理装置を提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の一実施例である電子式キャッシュレジスタの外観図。

【図 2】 同実施例における制御部の要部構成を示すブロック図。

【図 3】 同実施例の RAM に設けられる主要なメモリエリアを示す図。

【図 4】 同実施例の CPU が実行するメニューキー処理を示す流れ図。

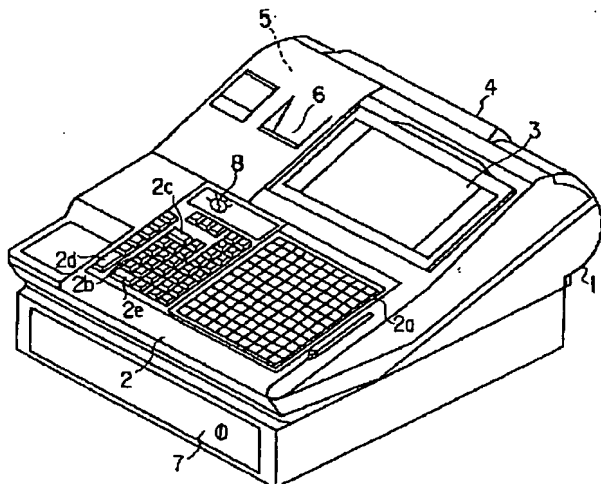
【図 5】 同実施例の CPU が実行する選択終了処理を示す流れ図。

【図 6】 同実施例にて発行されるレシートの一例を示す平面図。

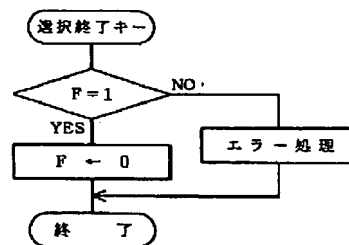
【符号の説明】

- 1 … 電子式キャッシュレジスタ
- 2 … キーボード
- 2 a … メニューキー（品番入力手段）
- 2 e … 選択終了キー（終了宣言手段）
- 3 … 前面表示器
- 4 … 客面表示器
- 5 … プリンタ
- 11 … CPU
- 31 … マスタメニューテーブル
- 32 … セットメニューテーブル
- 33 … 客メモリ
- 34 … フラグメモリ（フラグ記憶手段）

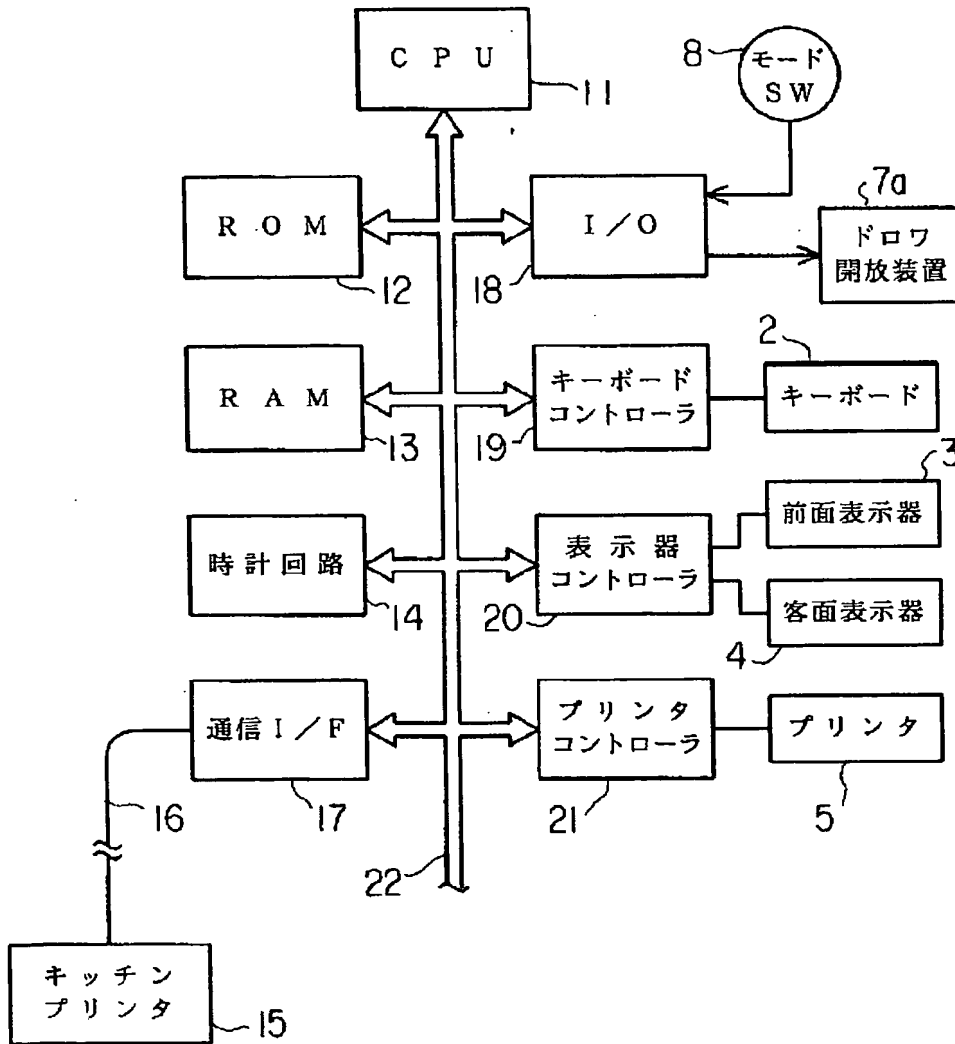
【図 1】



【図 5】



【図 2】



【図 6】

YY-WW-DD		No.1234
人数 3名		
フリーセット	1	¥2,000
サイコロステーキ		
スパゲッティ		
アイスクリーム		
ハンバーグセット	1	¥1,200
ハンバーグ		
ライス		
コーヒー		
ビーフカレー	1	¥1,000
合	計	¥4,200
預	り	¥5,000
約		¥800
貴人A	hh:mm	9999

【図3】

31

品番	名称	単価	S1	S2	SETNo	点数	金額
001	フリーセット	2000	1	1	0		
002	ハンバーグセット	1200	1	0	01		
003	ハンバーグ	800	0	0	0		
004	ステーキセット	1500	1	0	02		
005	ステーキ	1100	0	0	0		
006	サイコロステーキ	1000	0	0	0		
007	スパゲッティ	700	0	0	0		
008	ビーフカレー	1000	0	0	0		
009	アイスクリーム	400	0	0	0		
010	コーヒー	380	0	0	0		
011	コウチャ	380					

SETNo	メイン	サブ1	サブ2	サブ3
01	003	098	010	000
		099	011	000
02	005	098	010	021
		099	011	033

32

33

客メモリ

選択中フラグF

34

【図 4】

